

金城さんの うらそえ おすすめスポット

【琉球すば ラーメンWAZA家】

国立劇場おきなわの建物内にあるラーメン屋さん。麺は沖縄そばの生麺を使用し、背脂から取った豚骨ベースのスープに、てびちや昆布、カツオから取っただしを加えることで、ほど良いコクになっています。人気のメニューは、海老塩ラーメンとルーロー飯のセット。店主が台湾の人から直接教わったルーロー飯は特にオススメの一品です。



1 のぼりが目印。広いスペースです。2 ラーメンとルーロー飯のセットが人気。3 トッピングの具材もいろいろあります。

塩ラーメン▶
880円

特にコレ！



やわらかめのちぢれ麺に
スープがしっかり絡まりお
いしいです。

店舗情報

- 住所／浦添市勢理客4-14-1
(国立劇場おきなわ内)
- 電話／☎ 090(3230)5406
- 定休日／月曜日、木曜日(劇場公演日は通常営業)
- 営業時間／午前11時～(スープが無くなり次第終了)
※夜の公演がある場合は終演まで営業

“うらそえWORKER” 募集しています！

あなたの周りのうらそえWORKERを募集中です。自薦・他薦は問いません。メールまたはハガキに氏名、年齢、職場名、連絡先、PRポイントを記入の上、国際交流課広報応募係までお送りください。

【送付先】
〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
E-mail:kouhou@city.urasoe.lg.jp

▼応募フォーム



1 国立劇場は全国で6か所、東京と大阪、浦添にあります。2 本番前日の稽古で最終チェックに目を光らせます。3 令和4年度に上演した北山敵討のワンシーン(写真提供:国立劇場おきなわ)



仕事もプライベートも含めた、人生を楽しむ秘訣！

金城さんに3つの質問

Q1 リラックス方法は何ですか？

A 眠る事です。趣味と言っているほど寝ることは好きです。この仕事は考えることが多いので、寝ることはとても大事。寝て考えをゼロにすると新しいアイデアが出てきたりします。

Q2 浦添市はどんなところ？

A 国立劇場おきなわには、芸術監督になる前から出演させてもらっていて、とてもお世話になっていますが、浦添にはほかに、てだこホールもあります。それぞれの劇場には、そこにしかない雰囲気があるので、私の中で浦添は芸術のまちと感じています。

Q3 好きな言葉は？

A 「普通」という言葉です。普通とは、要するに自然体。演技だと基礎基本ができた上で、演技をやり過ぎた時にどういう風にそれを落としていくか。普通に持ってくるのが難しいところ。伝統芸能の世界は普通であり、自然体をいつも大事にしている。だからこそ普通という言葉です。目標かもしれません。



うらそえ WORKER — 浦添で働く人 —

vol.16

「国立劇場おきなわ 芸術監督」

たまぐすりゆうせんじゅかい
玉城流扇寿会 教師
きんじょう しんじ

金城 真次さん(35歳)



出演する側でも、演出する側でも変わらない
一つの舞台に懸ける熱い思い

芸術監督とは
どのようなお仕事ですか？

国立劇場おきなわの自主公演が年間20公演ほどあるので、その制作をしたり、演出や出演者を選定するといった仕事をしています。一言で言えば舞台作りです。一人で決めるわけではなく、演出を担当する数人で、話を詰めながら一つの舞台を作りあげます。

舞台演出は、芸術監督になる前、実演家の時に何度か経験しましたが、芸術監督に就任したのが2022年4月なので、舞台の演出などにつきっきりになって2年目になります。出演側から演出する側になりましたが、自分の気持ちとして、失敗は許されないということや、一つの舞台に懸ける思いは変わりません。演出には、国立劇場おきなわらしきや劇場が持つ品格を意識し、初めてのお客さまにどう伝わるかも考えています。

この仕事に就いたきっかけは？

芸術監督には前任の嘉数道彦さんが9年勤めており、後任として声をかけていただきましたが、実演家になったきっかけは、子どもの頃から沖縄の芸能が好きだったからです。

小さい頃は、母がよく芸能の舞台を見て連れて行ってくれました。昔は親子席

なんてなかったもので、入場を断られそうになることもありましたが、でも「この子は泣かないから」と説明して入れてもらうと、真剣に舞台を最後まで見て、終わるともっとやってほしくて泣いた、そんな子どもだったようです。

姉が踊りを習っていたので、姉に付いて行き、踊りの稽古を始めた時、祖父も趣味で三線を弾いていたりと芸能が身近にありました。先生から習いはじめたのは4歳くらいで、楽しみながらやってきて今に至ります。

やりがいを感じるのは？

一つの公演の幕が下りた時、全てがうまくいったと思えることはありません。そんな中でも、お客さまの拍手の音や熱気、お見送りしたその時に、見て良かった。来て良かったと表情に出ているんです。その瞬間は嬉しいですし、やって良かったなと思います。

今後は、映像も残っていない100年前、200年前の作品で、題名は分かっているが中身が分からないとか、上演されていないものを復活させたいですね。上演が途絶えたのは、人氣がなかったとも考えられるので、今の人にどのように見せるか工夫は必要ですが、この劇場の財産として、一つでも多く復活させたいと思っています。